

活動報告

減容・再生利用ワーキンググループ

リーダー: 日本ガイシ

サブリーダー: 鴻池組、清水建設、太平洋セメント、JFEエンジニアリング

メンバー: 旭化成ジオテック、安藤ハザマ、エヌエス環境、奥村組、大林組、環境管理センター、クボタ環境サービス、佐藤工業、神鋼環境ソリューション、新日鉄住金エンジニアリング、竹中工務店、竹中土木、千代田テクノル、東亜建設工業、戸田建設、西松建設、日揮、日立製作所、日立造船、ポニー工業、前田建設工業、三井住友建設、三菱マテリアル、りんかい日産建設、鹿島建設、大成建設、DOWAエコシステム、東京電力ホールディングス

活動概要

- 中間貯蔵施設では、約2,200万 m³と想定される除去土壌や焼却灰を保管し、30年以内に福島県外で最終処分することが定められています。これを全量最終処分することは現実的ではなく、処分量を極力減らす、減容処理が重要です。
- 減容・再生利用ワーキンググループは、効率的な減容処理を進めるとともに、これに伴い発生する副産物を、資材等として利用可能とするための検討を行っています。

検討内容

処理フローの検討

- 除去土壌、再生土壌、焼成物、濃縮物、最終処分の物量および放射能濃度を精査
- 除去土壌の放射能濃度や性状に着目した処理フローを検討

技術の組み合わせによる効果の検討

- 洗浄処理残さを熱処理の際に添加する反応促進剤としての再利用
- 異物除去で使用する薬剤の一部が熱処理の反応促進剤として機能し、促進剤の使用量を削減

再生土壌や焼成物の利用

- 利用方法、基準、品質管理、法整備等について検討

処理コスト試算

- 前処理、減容処理、再生利用、最終処分等に係るトータルコストを検討

濃縮物の安定化、保管に関する検討

- (別に設置された廃棄物ワーキンググループで検討)

検討例

処理フローの検討(イメージ)

